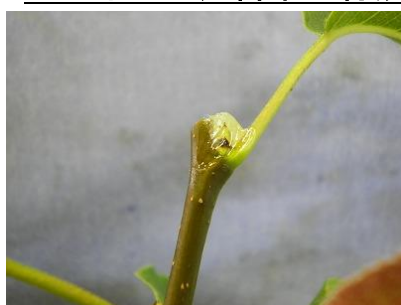


ニホンナシ「あきづき」におけるジョイント栽培技術

果樹のジョイント仕立ては、樹形が単純で、様々な作業が省力的となる新しい栽培法です。そこで、樹勢が強い「あきづき」での実用化を検討しました。①ジョイント用苗木の育成：尿素 500 倍溶液の葉面散布と新梢先端部へのジベレリンペースト処理で新梢を長く伸ばすことができます。②側枝発生方法：伸ばしたい芽に 2 月下旬に芽傷を入れ、発芽期にジベレリンペーストを塗布します。③花芽着生：7 月に強く伸びた新梢は斜めに誘引します。④側枝配置：株間 2m で着果 1 年目は 4~5 本、2 年目で 6~7 本、3 年目以降で 10 本を目指します。着果 3 年目で 4~5t/10a の収量が期待できます。

ジョイント用苗木の育成

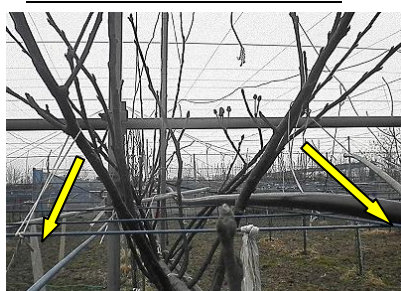


ジベレリンペーストは、発芽期 1 回と、新梢伸長が停止したら新梢先を数芽切り詰めた先端芽に塗布します (計 3 回まで)。
尿素 500 倍溶液の葉面散布は 5 月上旬から 2 週間おきに 5~6 回行います。



株間 2m で定植するには、全長 380cm 以上の苗が必要です。

誘引による花芽着生



強く伸びた新梢は 7 月に誘引すると花芽が多くなります。

側枝発生量の確保



2 月下旬に横位置の芽基部に鋸で芽傷を入れ、発芽期にジベレリンペーストを塗布すると新梢が伸長しやすくなります。



ジョイント作業は、発芽期前 (3 月下旬~4 月上旬) が適期です。

計画的な側枝配置



着果 1 年目



着果 2 年目



着果 3 年目

翌年の側枝育成、更新を考慮して側枝を配置します。株間 2m、列間 4m の場合、樹 1 本あたりの側枝数は、着果 1 年目で 4~5 本、2 年目で 6~7 本、3 年目以降で 10 本配置し、10a あたりの収量は、着果 1 年目で約 1 t、2 年目で 2~2.5t、3 年目以降は 4~5 t を維持できます。

(園芸研究所 果樹担当 TEL 0480-21-1141)